

ワンデーレスポンス(円滑な意思疎通①)



- 問題認識の明確化(工期が1日延びる損失を相互に認識)
- 発注者と受注者の情報共有(連携強化)

三方良しの 公共事業

- 国民
- 経済効果(インフラの早期完成)
 - 国民満足度の向上

- 発注者
- 業務効率向上

- 受注者
- 施工品質の向上
 - 受注者双方の意識改革
 - 経験や技術力の伝承
 - 工期短縮によるコスト削減
 - 企業の経営向上

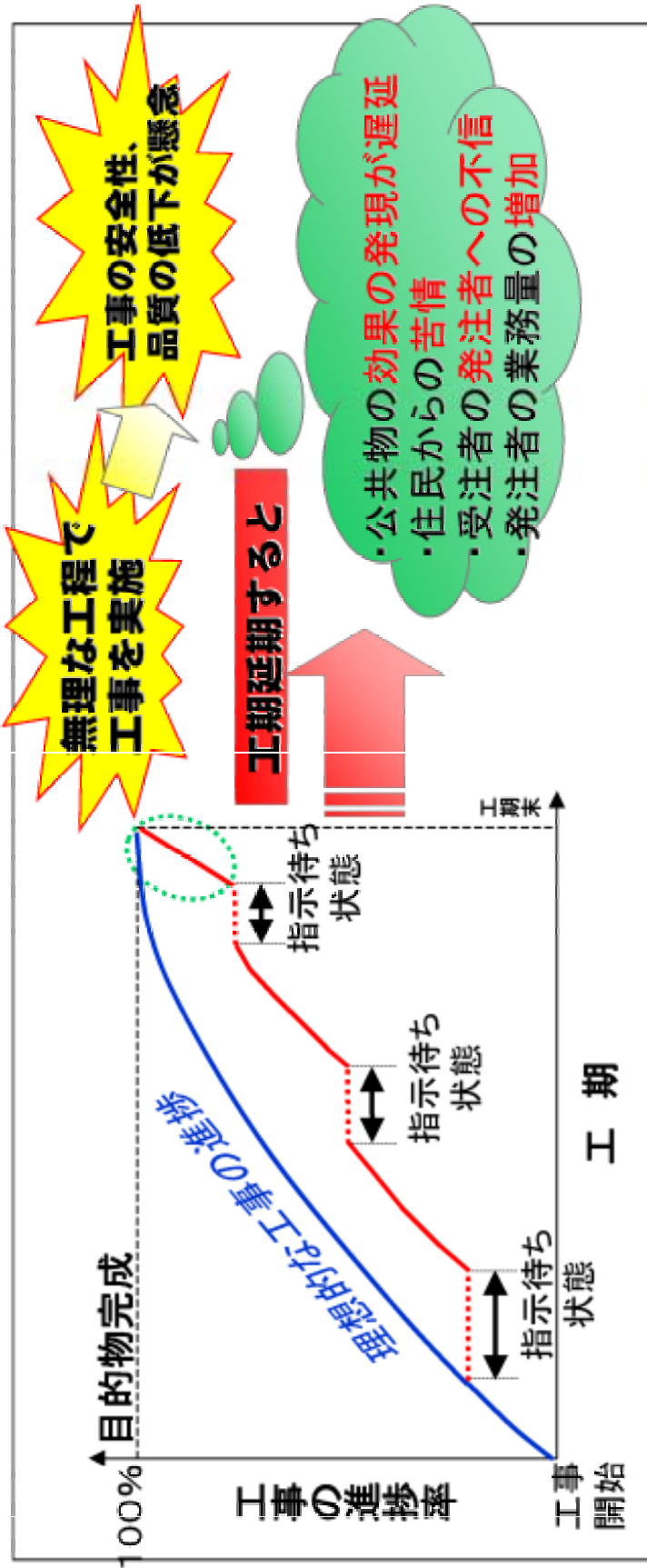
ワンデーレスポンスの実施目的

現状

発注者の意志決定
に時間がかかり過ぎる

実質工期が短くなる

品質の確保
安全の確保に懸念



ワンデーレスポンスの実施により「指示待ち状態」を短縮・解消し、適正な工期の確保を図る